

一乗谷朝倉氏遺跡博物館

一乗谷朝倉氏遺跡博物館は、北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光誘客に活用するため、遺跡観光のゲートウェイとなる博物館を整備し、全国の中世都市遺跡研究拠点化を進め、一乗谷朝倉氏遺跡全体のレベルアップにつなげることを目的として建設された。

朝倉館の原寸再現、映像による遺跡紹介、体験を通して学習できる施設として整備するとともに、石敷遺構を館内展示している。

建築概要

一設計コンセプト

夕景の中に博物館のシンボル展示となる原寸再現の朝倉館が、幻の館として建物の中にもうっすらと浮かび上がり、来館者が悠久の時の流れに思いを馳せ、遺跡へと向かう高揚感を誘う空間づくりを狙いとして、コンセプトを『夕景と追憶の「幻の館」』とした。

一建築設計の趣旨

本県に残る「土蔵」のイメージで、周辺の民家に馴染むよう切妻屋根の建築物とし、山並を背景に足羽川が流れ、周囲に田畑が広がる中、JR 越美北線が走り抜ける自然風景との調和に配慮しながら、歴史・文化の発信拠点として、歴史観光の拠点となる計画とした。

一建築計画

本施設内に展示されている朝倉館の原寸再現は、朝倉氏遺跡から出土された朝倉当主の館の基礎配置等を基に忠実に復元されており、当時の館の様子が窺えるものとなっている。本施設のコンセプトである「幻の館」は、復元された約 500 年前の館の様子が施設内部から外部へ現れるように、展示室周囲をカーテンウォールとし、周囲の田畑に浮かび上がらせることで幻想的な演出を施している。また、朝倉館再現展示室周囲は回廊となっており、再現館同様、来館者の様子も外部に現れ、施設周囲の賑わいを生み出している。

一構造・設備計画

平成 16 年、福井豪雨により足羽川が決壊し、本施設がある地区も浸水の被害を受けている。その為、展示室・収蔵庫・機械室を 2 階に設け浸水対策を行った。大規模な「石敷遺構」（幅約 5m、長さ約 35 m、高さ約 0.7m）、南北に延びる「流路」が発見され、戦国期の遺構として、当時のこの地域の様子を知る手がかりとなる貴重な資料とされている。そのため敷地内で発見された石敷遺構に関しては建物内に保存・展示することとなった。そこで、石敷遺構展示室は、遺構を保護するため地中梁を持たせず、20m スパンの無柱空間が求められた。また、2 階部分には荷重の大きい収蔵庫・機械室が配置されていることも考慮し、2 階部分に 1 層分の鉄骨のトラスを 4 本架け渡すことで構造上解決されている。

基礎は、流路法面を損傷しないように、柱状改良を用いた基礎構造とし、改良体は流路底および天端に配置し、法面を跨ぐ地中梁を構築した。

石敷遺構展示室の空調計画は、現在の保存環境に近い状態を継続できるよう空調は行わず、室内は自然換気による空気循環により、適切な室温・湿度の維持を図った。無風時等自然換気での循環が滞るケースも考え、排気ファンや循環ファンなども組み合わせた換気計画とした。

建築データ

所在地	福井市安波賀中島町 地係
主要用途	博物館
設計者	建築 内藤廣・センボー設計共同体
施工者	建築 (株)見谷組、永和住宅(株)、石田建設工業(株)JV 電気 (株)伊藤電機、(株)豊島電工JV 機械 新富産業(株)、北陸設備工業(株)、(株)サカイエステックJV
敷地面積	5,285.72 m ²
建築面積	2,889.31 m ²
延床面積	5,281.75 m ²
階数	地上2階、地下1階
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
工期	2019年12月～2022年1月









